

構想区域	名称	1.今後の方針			2.具体的な計画												②具体的な内容	③年次スケジュール
		①自施設の現状及び課題	②地域において今後担うべき役割	③今後持つべき病床機能	①4機能ごとの病床のあり方について						2025年度							
					病床数(平成29年度病床機能報告)						高度	急性期	回復期	慢性期	合計	介護施設		
高度	急性期	回復期	慢性期	休棟等	合計	高度	急性期	回復期	慢性期	合計	介護施設							
桑員	山崎病院	・地域医療、人工透析医療を行う。 ・一次救急の診療体制が課題	・一般診療、送迎を含めた外来透析機能と併せ、通院透析困難となった方の長期入院を区域を越えて担う。		0	0	0	48	0	48	0	0	0	48	48	0		
桑員	長島中央病院	・介護療養病床の廃止と地域医療構想をふまえた病床の転換を検討する。 ・急性期、回復期病院からの転院先として、在宅復帰機能強化型の取得を目指す。 ・急性期病院からの早期退院患者の対応(患者の重症化(人工呼吸器など)への対応)。 ・在宅や施設からの看取りを前提とした入院への対応。	・在宅患者の後方支援としての機能 ・終末期医療を担う機能 ・急性期、回復期からの転院先としての機能(在宅復帰機能強化型)	・在宅医療、介護の拠点としての機能 ・難病患者のレスパイト入院と長期療養の機能 ・障がい児のレスパイト入院と長期療養の機能	0	0	0	256	0	256	0	0	0	160	160	96	・介護療養病床96床を介護医療院へ転換する。	・平成32年4月1日開設予定。
桑員	もりえい病院	・三重県がん診療連携病院として北勢二次医療圏において、がん・緩和医療を提供するとともに、桑名地域における二次救急輸送病院として救急医療に対応するなど、急性期医療の提供を特徴として地域における医療ニーズに対応していきたいと考えている。 ・主たる実績を挙げると、年間病棟稼働率90%以上、救急搬送患者数年間1200件、緩和ケア紹介医療機関数(開設以来)51機関となっている。 ・国、県、地域自治体の医療政策・計画等を踏まえるとともに、日常の臨床実態を見つめながら地域における当院の医療貢献のあり方を不断に点検しているが、中でも「在宅」を軸においた医療を展開し、貢献していくことが必須であると強く認識しており、この方向で対応してきている。 ・課題としては、入院医療を、患者、ご家族が望む在宅医療に如何に繋いでいくかが当院の大きな課題であり、また、地域の課題でもあると考えている。	・第一には、二次救急輸送を担う病院として「急性期」機能を保持し、充実を図る。 ・第二には、桑名・いなべ地域における唯一の緩和ケア専門病棟をもつ病院として、その機能を保持し、充実を図る。 ・これらのことを車の両輪として地域医療を担っていく。	・医療計画において、病床数の総枠・機能別病床の総枠が定められている中で、当院に対して高まる医療需要をふまえ、急性期病床34床、緩和ケア病床20床の機能強化・効率的運営に努め、当該病床を堅持していく。	0	34	0	20	0	54	0	34	20	0	54	0		
桑員	ヨナハ総合病院	・桑名市南東部(陽和・明正中学校区)、三重郡朝日町・川越町を中心に二次医療機関として急性期医療機能を担い、桑名地域唯一の回復期リハビリテーション病棟を有し回復期機能を、また慢性期機能として医療療養病床を持ち、複合的医療機関として地域医療を守るべく地域住民の安心・安全の確保に取り組んでいる。 ・施設の老朽化・狭隘化が顕著となり、加えて今後高い確率で発生が予測されている南海トラフ大地震の津波浸水被害を回避する目的から桑名市蓮花寺エリアに新築移転を計画している。(2021年開院予定)	・移転後は桑名市西部地域(蓮花寺・桑部・大山田等)で唯一の病院として、地域住民の安心安全を確保すべく救急・産婦人科・小児科・内科系を中心とした急性期・回復期医療を軸とする多機能病院として機能する。 ・地域包括ケアシステムや在宅療養生活を支える支援機能、各機能を有機的に繋ぐ在宅患者支援機能が必要であることから、法人の在宅関連事業所、地域の事業所とともに地域全体で患者様のケアの一貫性を繋ぐ。	・現状機能を維持(急性期、回復期、慢性期機能、在宅支援)することはもとより、医療の質をより向上すべく努力していく。 ・移転後は海拔60mを超える地域となるため、災害支援病院の後方支援の役割を担えるよう医療機能を充実させる。 ・移転新築後は、ヨナハ産婦人科小児科病院を統合し185床として稼働していく。 ・桑名市における周産期機能、新生児・小児科の機能をより充実させ医療の質を向上させる。	0	53	52	42	0	147	0	91	52	42	185	0	・2021年移転新築に伴い、ヨナハ産婦人科小児科病院38床を統合	・2021年
桑員	青木記念病院	【現状】 ・年間数百台の救急搬送があり、急性期病床(46床)は、ほぼ満床状態である。 ・回復期病床である地域包括ケア病棟(58床)もほぼ満床である。 【課題】 ・救急患者を十分に受け入れるためにも、早期退院が課題となる。	・桑員構想区域の救急医療の一翼を担うとともに、回復期機能の充実を図る。	・現在の急性期病床及び地域包括ケア病床を維持する。	0	87	0	0	0	87	0	46	58	0	104	0	変更の予定なし	
桑員	大安病院	・療養病棟入院基本料1、届出病床50床で運営中。 ・耐震補強、自家発電機関係、廊下幅の拡張、その他が課題。	・在宅医療への対応(病院のままでは不可能と考える)。	・病院機能としての療養から診療所(有床)としての療養病床への変更。	0	0	0	50	0	50	0	0	0	19	19	0	・有床診療所(療養病床)に変更	・経営及び財務状況を考慮したうえ、2022年に変更可能とすれば、したい。2022年が不可能ならば、2024年4月1日より変更を考えています。

構想区域	名称	1.今後の方針			2.具体的な計画											②具体的な内容	③年次スケジュール		
		①自施設の現状及び課題	②地域において今後担うべき役割	③今後持つべき病床機能	①4機能ごとの病床のあり方について						2025年度								
					病床数(平成29年度病床機能報告)						高度	急性期	回復期	慢性期	合計			介護施設	
高度	急性期	回復期	慢性期	休棟等	合計	高度	急性期	回復期	慢性期	合計	介護施設								
桑員	ヨナハ産婦人科小児科病院	<ul style="list-style-type: none"> 桑名市を中心とした桑員地域、三重郡朝日町・川越町を加えた地域において周産期医療、新生児・小児科医療を担い、地域周産期医療を守るべく地域住民の安心・安全の確保に取り組んでいる。 施設の老朽化・狭隘化が顕著となり、加えて今後高い確率で発生が予測されている南海トラフ大地震の津波浸水被害を回避する目的から桑名市蓮花寺エリアに新築移転を計画している。(2021年開院予定) 	<ul style="list-style-type: none"> 2021年移転新築に伴いヨナハ総合病院に統合することからヨナハ総合病院に記載 	<ul style="list-style-type: none"> 2021年移転新築に伴いヨナハ総合病院に統合することからヨナハ総合病院に記載 	0	38	0	0	0	0	38	0	0	0	0	0	0	<ul style="list-style-type: none"> 2021年移転新築に伴い、ヨナハ産婦人科小児科病院38床を統合 	<ul style="list-style-type: none"> 2021年
桑員	桑名病院	<ul style="list-style-type: none"> 看護師、介護士の確保 施設の老朽化 	<ul style="list-style-type: none"> 慢性期医療及び在宅医療の推進 終末期医療を担う機能 	<ul style="list-style-type: none"> 慢性期 	0	0	0	50	0	50	0	0	0	50	50	0			
桑員	日下病院	<ul style="list-style-type: none"> 医師不足、看護師・看護助手不足と高齢化 	<ul style="list-style-type: none"> 大阪市(225km²)、四日市市(206km²)などと同等の広さのないなべ市(220km²)において2つしかない、また、平日午後一般診療・土曜診療をしている唯一の一般病院として、基本機能として急性期機能の役割(1年365日を通して、気管挿管など救命救急治療のできる医師が当直した救急体制など)を現状どおり果たしていく必要がある。 また、翠明院はじめ市内大手老人施設のほとんどの入居者・近隣北勢病院入院患者などの急変対応も担っており、急性期機能は必須である。 慢性期機能は地域ニーズがあり、継続する必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 一般病床(継続) 療養病床(継続) 	0	106	0	48	0	154	0	106	0	48	154	0	<ul style="list-style-type: none"> 検討中 	<ul style="list-style-type: none"> 先述、1の②のとおり、基本的には現状の急性期機能及び慢性期機能を維持したい。 具体的な内容・スケジュールはないが、地域ニーズから回復期などの病床機能も検討していきたい。 しかし、現状、回復期リハビリテーション病棟の施設基準である6.4m²/1床の要件を満たしていない。病床単位の改修工事も検討したが、補助金対象外で難航中。将来の立替、大改装までの期間において、何らかの緩和措置・経過措置が可能であれば、一部病床機能の変更も検討したい。 また、病棟(病床)の施設基準である看護師配置13対1を満たすことも当面困難です。 	